

VII 成果と問題点

1 道央部の虎杖浜式・沼尻式とアルトリ式土器について

本遺跡では恵庭市内の調査に於いて13例目となる貝殻文土器を検出し、さらに1軒ではあるが同時期の住居を検出した。本文中でも述べたが、本遺跡出土貝殻文平底土器は、口縁～胴部上半にかけて貝殻腹縁文により文様が描かれるもの、弧状の条痕によって全面が調整されるもの、口縁直下に貝殻腹縁圧痕文が施される隆帯がつけられるものなど、文様構成、器形の上では虎杖浜式・沼尻式～アルトリ式の範疇に入るものである。中でも住居H5出土資料は、床面から出土した良好な一括資料である。これらのこと踏まえ、近隣の出土例を参考にしながらこの時期の様相について述べておく。

恵庭市近辺（小樽市、札幌市、江別市、恵庭市、千歳市、北広島市）において虎杖浜式・沼尻式からアルトリ式とみられる貝殻文土器が出土している遺跡は48遺跡にのぼる。地図の大きさの都合上、小樽市の遺跡は含めることができなかったが、47遺跡についての地点を落としてみた。地図は等高線を平成6年に修正測量された国土地理院5万分の1地形図から、河川を明治42年、大正6年に測量された陸地測量部発行北海道仮製5万分の1地形図からトレースし、両者を合成したものである。

遺跡はいずれもかなり断片的な資料が多く、これだけの遺跡で出土が確認されているにも関わらず、復原され器形、文様などの特色がわかったものは本遺跡の2例を含めても19個体に過ぎない。遺構についても同様で、恵庭市島松仲町遺跡の集石遺構、札幌市T281遺跡の土壙、江別市大麻15遺跡の数基の土壙にその可能性があり、やや遠くなるが小樽市の塩谷3遺跡では住居2軒が検出されるに留まっている。このように不十分な中ではあるが、これらの遺跡について以下に分析してみる。

まず各遺跡の土器文様上の差異を明らかにするため貝殻文の調整方法、整形方法の一部について、その有無を表にしてみた。●をつけたものが存在を確認できるものである。報告書の記載をもとに作成したが、写真図版から判断したものもある。数は少ないが明確ではないものもあり「？」を記した。各要素は以下の通りである。

1 貝殻押引文 2 刺突文（列点文） 3 無文 4 貝殻腹縁圧痕文 5 口縁下の斜位の腹縁圧痕 6
切り出し状の口縁 7 縦位の条痕 8 横位の条痕 9 沈線 10 隆帯

これらのうち1、2、4、6はどちらかといえば虎杖浜式に結びつく古手の技術に基づくもの。8、10に関してはアルトリ式によくみられる新しい技術であることができる。古手の虎杖浜式の特徴が色濃いものは、札幌市S267・268遺跡に顕著なほか、江別市7丁目沢2遺跡、千歳市キウス5遺跡において出土している。全ての遺跡において貝殻腹縁圧痕文が器面全体に施されるものがあるが、S267・268遺跡の復原もしくは復原に近い3個体（13）は、全て波状口縁を呈し、器形はやや口縁に向かって開き気味である。口唇は切り出し状であり内2例の端部には腹縁による細かい刻みが施されている。7丁目沢2遺跡では1992年の調査で、破片資料ではあるが、器面全体に貝殻腹縁圧痕文が施され、波状口縁を呈するとみられるものがある。キウス5遺跡では条痕と貝殻腹縁文が複合して器面全体に施文される平縁の土器（45）がある。一方、典型的なアルトリ式に相当するとみられるものは、恵庭市島松仲町遺跡、中島松5遺跡B地点、北広島市北の里3遺跡、千歳市オサツ16遺跡から出土している。島松仲町遺跡、中島松5遺跡では復原個体は得られていないが、それぞれ条痕が横位に施文される破片が多く、貝殻腹縁圧痕による刻みのはいる隆帯が口縁直下に施されるものがある。北の里3遺跡では復原されたものはないが、隆帯が付き、条痕が横位に施されるものがある。オサツ16遺跡

では刻みのつく隆帯が施される復原土器（46）がある。

これらのことから、典型的な虎杖浜・沼尻式は現在のところ野幌丘陵西側と千歳市キウス遺跡を中心として出土し、アルトリ式は地図上のほぼ全域にわたって出土している。しかし、調査遺跡が河川改修に伴うものが多く、分布状況に偏りがあることが予想され、また施文要素としても虎杖浜式・沼尻式とアルトリ式を明確に区分できるには至らないため、分布範囲の可能性のみ指摘しておく。

また施文要素のひとつとしてあげた口縁下に施された斜位の腹縁圧痕文は、これまでの虎杖浜式、アルトリ式のなかにはあまり認められないものであった。類似するものは標識資料であるアルトリ遺跡に於いて隆帯上に限って（竹田 1956、第2図3, 8, 14など）施文されており、芦別市滝里4遺跡では破片が5点掲載（北埋調報98 1996 図V-25-199~203）されるのみである。唯一多く出土しているのが比較的近隣の遺跡といえる赤井川村日の出遺跡において、1つの復原個体を含めやや纏まって出土している（北埋調報161 図IV-23-1、IV-24-14、17~19）。これに対して、恵庭市の近隣の遺跡ではこの文様が多く出土し、本遺跡の2例（39）をはじめ、札幌市S242（小野幌）遺跡、小樽市塩谷3遺跡で復原個体が出土しているほか、北広島市北の里3遺跡でも多く出土している。その総数は43遺跡中18遺跡、掲載資料5点以下の遺跡を除くと53%の遺跡で出土している。さらに標識資料では隆帯上に限られていたこの圧痕が隆帯を伴わずに施文されているものは18遺跡中11遺跡と多く、この口縁下の斜位の圧痕はこの地区特有の文様であった可能性がある。

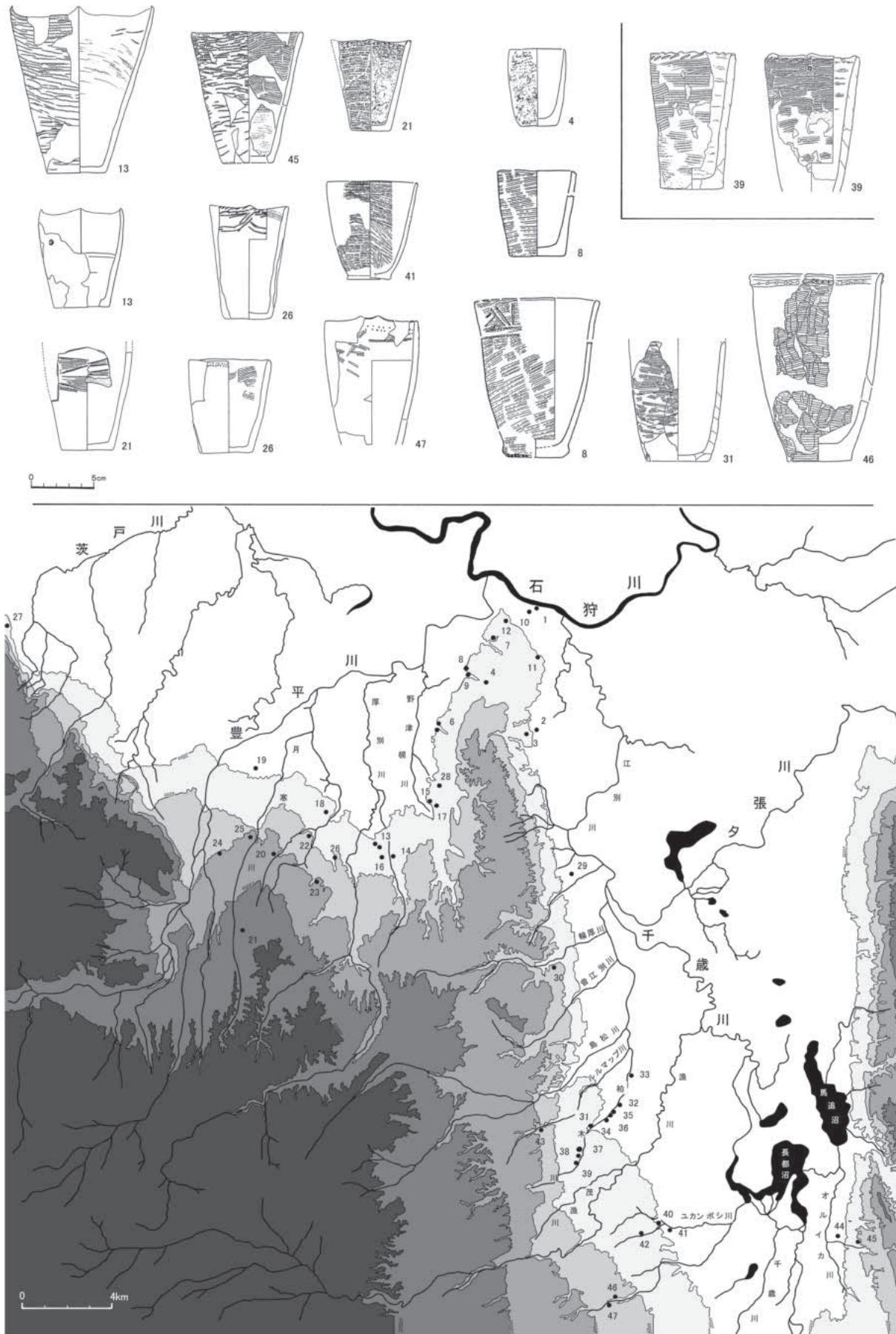
これまで何度か述べたように、当地区の虎杖浜式・沼尻式、アルトリ式土器は今だ未だ断片的な資料であるため、これ以上の文様、分析は今後住居跡を多数伴うような遺跡の調査を待って行いたいと考えている。

（立田）

表VII-1-1 恵庭市近辺の虎杖浜・沼尻式、アルトリ式出土遺跡一覧

番号	市町村名	遺跡名	文様要素										報告書名	刊行年	備考（遺構など）
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
1	江別市	坊主山遺跡			●								河野本道他「江別市史」	1970	
2		西野幌11遺跡		●									● 江別市教育委員会「西野幌11遺跡」	1993	
3		西野幌12遺跡		●					●				北埋調報 54	1989	
4		大麻1遺跡				●	●						北埋調報 5	1981	
5		大麻13遺跡					●	●					江別市教育委員会「江別市文化財調査報告書35集」	1990	
6		大麻15遺跡	●		●	●	●		●	●			江別市教育委員会「江別市文化財調査報告書22,45集」	1991	1986 土壌？
7		7丁目沢2遺跡		●					●				江別市教育委員会「江別市文化財調査報告書55,60,78集」	1992~6	
8		吉井の沢1遺跡	●	●	●	●			●	●			北埋調報 5	1981	
9		吉井の沢2遺跡							●	●			江別市教育委員会「江別市文化財調査報告書104集」	2002	
10		町村農場1遺跡		●	●	●			●	●			江別市教育委員会「江別市文化財調査報告書17,62,72,80,84集」	1983 1993 1995 1990	
11		高砂遺跡	●		●	?			?				江別市教育委員会「江別市文化財調査報告書64,44,46,59,93,95集」	1990 1991 1993 1996 1999 2000	
12		後藤遺跡											江別市教育委員会「江別市文化財調査報告書39」	1990	
13	札幌市	S267・268遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●			札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書XIV」	1977	
14		S411遺跡	●	●	●	●							札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書XVII」	1978	
15		S153遺跡		●	●	●							札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書X, XIII~IV」	1976 1982	
16		S265遺跡		●	●	●							札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書XV」	1977	
17		S237遺跡						●	●				羽賀 1976より	1976	
18		S329遺跡											羽賀 1976より	1976	
19		S505遺跡							●				札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書67」	2002	
20		T77遺跡		●	●	●							札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書III」	1974	
21		T210遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●			札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書VII」	1976	
22		T151遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●			札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書XV, XLIV」	1983 1993	
23		T466遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●			札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書11V」	1984	
24		T71遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●			札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書47」	1995	
25		T310(平岸坊主山)遺跡		●									畑 宏也「札幌市平岸坊主山遺跡 Ayna Moshiri II」	1966	
26		T281遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●			札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書21」	1979 土壌 1	
27		N316遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●			札幌市教育委員会「札幌市文化財調査報告書XLV」	1994	
28		S242（小野幌）遺跡		●	●	●	?		●	●			北海道先史考古研究会「小野幌遺跡の発掘調査（略報）」	1975	
29	恵庭市	島松仲町遺跡	●	●	●	●							恵庭市教育委員会「恵庭市発掘調査報告書1点」	1994	
30		中島松1遺跡						●					恵庭市教育委員会「恵庭市発掘調査報告書1点」	1992	
31		中島松5遺跡B地点	●	●	●	●	●	●	●	●			中島松5遺跡B地点	1990 集石1	
32		南島松1遺跡		●									恵庭市教育委員会「恵庭市発掘調査報告書 中島松1遺跡」	1991	
33		南島松3遺跡							●				恵庭市教育委員会「恵庭市発掘調査報告書 中島松3遺跡」	1992	
34		南島松4遺跡							●				恵庭市教育委員会「恵庭市発掘調査報告書 中島松4遺跡」	1992	
35		西島松5遺跡								●			北埋調報194	2003	
36		柏木川11遺跡							●	●			恵庭市教育委員会「恵庭市発掘調査報告書 柏木川11遺跡」	1990	
37		柏木川13遺跡		●	●	●	●	●	●	●			本報告		
38		ユカンボシE5遺跡			●	●	●	●	●	●			恵庭市教育委員会「恵庭市発掘調査報告書 ユカンボシE5遺跡低地面上における調査」	1994	
39		ユカンボシE7遺跡	●			●			●	●			北埋調報 132	1998	
40		ユカンボシE8遺跡							●	●			恵庭市教育委員会「恵庭市発掘調査報告書 ユカンボシE8遺跡」	1989	
41		ルルマップ15遺跡								●			北埋調報 118	1996	
42	北広島市	北の里3遺跡				●	●	●	●	●			北広島市教育委員会「北の里3遺跡」	2001	
43		中の沢B遺跡			●								北広島市教育委員会「北の里3遺跡」	1973	
44	千歳市	キウス4遺跡			●								北埋調報 144	2000	
45		キウス5遺跡	●	●	●								北埋調報 125	1998	
46		オサツ16遺跡			●								北海道文化財保護協会「千歳市 オサツ16遺跡(2)」	1996	
47		オサツ18遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●			北海道文化財保護協会「ポンオサツ遺跡(2)、オサツ18遺跡(2)、ケネフチ5遺跡(2)」	1996	
48	小樽市	塩谷3遺跡	●	●	●	●	●	●	●	●			小樽市教育委員会「小樽市塩谷文化財調査報告書第3輯 塩谷3遺跡」	1990 住居2	

=報告書掲載点数5点以下の参考資料



図VII-1-1 恵庭市近辺の虎杖浜・沼尻式、アルトリ式土器出土遺跡位置図